

会 議 名 (審議会等名)	第3回川西市立学校校区審議会		
事 務 局 (担 当 課)	教育委員会教育振興部学校教育室 (内線3385)		
開 催 日 時	平成20年3月24日 (月) 午後5時00分～午後7時10分		
開 催 場 所	川西市役所4階 庁議室		
出 席 者	委 員 員	三上和夫、植木壽子、増元富臣子、土肥千生子、安井正弘、中西忠男、中井成郷、秋田修一、滝井温子	
	そ の 他		
	事 務 局	牛尾教育振興部長、幸田総務調整室長、仲学校教育室参事、船曳学校教育室主幹、稲野学校教育室主査、夏目学校教育室主査、尾屋学校教育室主任	
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	1 議 事 (1) 諮問事項に係る審議		
会 議 結 果	(1) 審議中 (審議経過のとおり)		

会 長	まず今日は、年度末にあたっての、年度毎の議題区切りが必要かもしれません。そのことについて、事務局の方で今年度中にとという案件で、微調整あるいは提案等がありましたら、少しお話しいただきたいのですが、どうでしょうか。
事務局	<p>前回諮問させていただいた三件のうち、諮問の内容的には2番目の清和台南小学校への校区変更については、概ねご結論をいただいたという状況になっておりますが、取扱いについては、今後の他の案件の進行状況を踏まえて、どうしていくのかというのは、決めていただくということになっております。前回は申し上げましたように、清和台南小学校につきましては、来年度新入学の準備が始まる10月段階に、校区変更が決まっておれば一番有難いという状況でございますので、そのあたりを優先をいただくということになります。これは、今日必ずというわけではもちろんございません。他の案件の進行状況によりますが、次回5月ぐらいには、年度明け第1回目を開催を出来ればとは思っておりますので、その進行状況を見ながら、最終的なご判断を頂ければありがたいと思っております。</p> <p>先の話にはなりますけれども、今回の三件の校区変更案のなかで、前回明峰小学校の分については、少し審議的に急いでおるといような状況を申し上げておりました。通称舎羅林山というところの開発が再開をしようということで、その進行によって、その地域の小学校あるいは中学校の校区設定を、していかざるを得ないという状況がございます。この分につきましては、次回の5月あたりには改めて、追加諮問させていただきたいと考えております。その分につきましても、開発の状況によって、必ずしも20年度中にという状況には至らない、必要性が出ない場合もありますが、最短で開発が進み販売が始まるという可能性も考えないといけませんので、できるだけ早めに校区を設定するというのが必要になってきます。この分と、先程申し上げました明峰小学校の校区変更の状況とは、並行的に少し急ぐ案件というふうに、理解をしております。もちろん十分に議論を尽くしていただくということが必要にはなりますけれども、新たに追加をさせていただく分も併せまして、20年度中にはなんとかご結論を頂ければありがたいと思っております。</p> <p>もう一件、東谷小学校の部分につきましては、もちろん明峰小学校の課題と合共通する課題を持っておりますけれども、当初から申し上げておりますように、当面早急にとということではなくて、将来的なことを睨んでおくということもございまして、そのあたりで十分に議論をしていけばいいかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それともう一点、事務局の方から幼稚園の件につきまして、ご報告がございまして、よろしく願いいたします。</p>

事務局	<p>訂正及び追加をさせていただきたいと思います。第1回目の時にお配りしました、諮問書ですが、小学校区及び中学校区の校区変更についてということで、諮問事項を上げておりますが、うっかりしておりました、幼稚園のことが抜けておりました。幼稚園につきましても、同じように校区変更になる部分については、変更をするというふうを考えておりますので、併せて議論をお願いしたいと思います。申し訳ありませんでした、よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>今事務局から説明いただきましたようなことが、案件としてはこれまでの2回の審議会で議論されてきたことの整理という面もございます。私として感じますことは、前回のコミュニティと校区全体をどう考えるのかという議論が、相当多くありました。いよいよ原則原理問題も入って、議論がすごく重要なところに来たなというのが、ひとつ第一の実感です。それともう一つは今回小学校についての三件含めまして、案件ごとにどういう地域状況と通学状況なんだということを、随分資料も収集していただいた上で議論になっている。その意味でいうと、審議会ですから、いつも総括的な議論が求められるんですが、必要に応じてケーススタディみたいな部分がですね、相当出てきておる。これは、どうやら実態としては、フィルムが2枚あって、色の違った2枚を重ねるとようやく地域の実態がコミュニティと通学とがわかるというあたりがでてきてですね、事の性格ごとに分類し、且つ総合する議論をここでやろうというふうになっているのかなということで、資料の色々な網のかけ方とか含めて、教えられることがありました。</p> <p>もうひとつ感じますことは、司会としての責任を超えるもので、かなり恐れに近い気持ちを持って申し上げますが、自分としてこの教育行政学、とりわけ通学、機会保障みたいなことを専門にやっている人間として、毎年こんなにきっちりと案件を審議にかけて、委員の様々な疑問と問題指摘を吸収しながらやっていくという、この川西市の校区審議会というものについて、非常に高度な討論だなと思っております。時々議事録のチェックをさせていただくときに、いきいきする議論が、一件ごとで毎回けりがつくということは無いんですよね、そういえば2、3回前にこの件があったとかですね、大変含みの多い、成果の多い議論をしているのかなというふうに思っております。</p> <p>司会として申し上げますことは、やはり事務局の提案、資料説明に十分な時間をとる必要があるということと、論点が違う論点については、やはり委員のご意見をやりとりの中でも続けていただく必要があるので、その二つのことを心がけて、やっていきたいと思っております。いずれも私にとっては、非常に責任を感じるような重いテーマであります。ひとつ皆さんよろしく願いいたします。</p> <p>とりわけ今年から来年にかけて、先程お話しができました、新しい校区設定に関する議論というものもありますので、これなんかは端的に言って、委員会としての教育委員会並</p>

	<p>びに教育委員会事務局ですね、全体としてのいわば総合知性みたいなものですね、大変重い議題であります。これは、この校区審議会という組織が、こういった問題にどのようにどれくらい関わりうるのか、また知性が発揮できるのか、言ってみればテストケースでもあり、試されているような面もあると思います。</p> <p>最初にこの間の感想が大きかったものですから、少しこれまでの状況について意見を述べさせていただきます。</p> <p>今日追加申請がありました幼稚園につきまして、案件の説明をまずお願いしようかと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。それではお願いします。</p>
事務局	<p>まず1番目の明峰小学校の諮問についてですが、こちらについては、もともと北幼稚園の園区になっておりますので、変更はありません。2番目の多田小学校の分については、現在多田幼稚園になっているところを、清和台幼稚園に変更となります。3番目の東谷小学校の分については、東畦野山手が東谷幼稚園から牧の台幼稚園へ、西畦野が東谷幼稚園から松風幼稚園に変更となります。</p>
会 長	<p>幼稚園の変更についての提案が、審議の中に加わっているという形で再提案されていると、補充提案と言いますか、そういうことでよろしいですね。</p> <p>今のところで、ご質問がございましたら是非お願いいたします。よろしいでしょうか。よろしければ今日の議題の方に入っていきたいと思えます。</p>
事務局	<p>会議録の方も送らせていただいて、お読みいただいたと思いますが、再度議事録を読む中で感じておりますのは、コミュニティの地域と校区のあり方の問題ということが、1、2回目含めて中心的な課題ということでございました。その中で教育委員会としても、コミュニティの校区に対する関わり方については、今回の校区変更案では非常に大きな議題になるであろうと思っておりました。その中で、つい先週ですけれども、コミュニティを担当しております、市民活動・相談課というのがございまして、そちらの方と一定の意見交換と言いますか、確認も含めまして、打ち合わせをさせていただいております。それについて、ご報告をさせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
会 長	<p>これは、市の部局の中での、市としてのお互いの情報交換だったと思いますが、これは私なんか社会教育及びコミュニティの問題に広がっていきますと、自分の専門とちょっと離れたようなところで、心配になってしまうのですが、それはそれとしまして、既に相談なさっているようなので、経過的な説明をお願いできたらと思えます。それではお願いします。</p>
事務局	<p>そうしましたら、その打ち合わせとしますか、意見交換会ででました意見と言いますか、そういうものについて、ご説明をさせていただきたいと思えます。その少し前にですね、ちょうどたまたまですけれど、3月市議会の一般質問でもコミュニティと校区のあり方</p>

について、ご質問をいただいております。それは当然担当課の方で答弁をしております。その答弁と、担当課と話をさせていただいた内容というものは、基本的には合致をしております。担当課としての今の考えというものが、結果的に我々の方に伝えられたということになっております。その考え方といいますのは、原則として、コミュニティの成り立ちそのものが、いわゆる小学校区を基本に、コミュニティというものを形成しておるといいう状況の中で、なぜ小学校区を基本としたかといいますと、一定の地域活動あるいは行政そのものを含めて、目の行き届く範囲といいますか、国の指導の方も、だいたい5,000戸程度とかというような標準もあるようでございます。そういう一定の目の届く区域というものをみた場合に、どの程度の区域になるのかというと、小学校区というのが一つの目安になるだろうというのが、基本であったと。その中でコミュニティを形成をしていこうということで、スタートをしておるといってございます。それは、あくまでも基礎単位という前提でございまして、じゃあ今後校区が変わっていくことを考えたときに、どの様に考えていくのかということになれば、基本的に担当課とすれば、コミュニティのあり方とは、当然イコールではないですよということです。基本の単位とはするけれども、イコールではないと。答弁の内容も含めまして、基本的な表現は感じ方にもよると思っておりますけれど、最終的にはコミュニティの形成をどうするのかという部分については、いわゆる住民側の選択といいますか、そういう部分になるであろうということでございます。具体的な形で申しますと、今回校区が変わった、地域が変わる部分がある、コミュニティが校区に併せて移動をすべきかどうかということについては、行政側がこうなさいというようなものではないんだというようなことが、コミュニティの担当課としての、これまでのコミュニティの形成の過程を踏まえた上での考え方でありまして、ただ、これまでコミュニティが形成されて以後、前回委員も加茂小、加茂西小の統廃合の部分で、ご意見をいただきましたけれど、そういう特徴的な変化はあったんですが、それ以後今回のような、一定の地域だけが移動する校区変更というのは、今まで無いわけです。そういう意味では、コミュニティと校区のあり方という様な問題について、今まで特段議論をするということは一切ありませんでしたので、当然担当課としましても、状況的に新たな要素がある場合については、必要があれば、それは別途コミュニティのあり方というものについて、検討していかないといけないであろうということでありました。また、今後校区審議会としてもなかなか、コミュニティのあり方を論じるわけではございませんけれども、少なくともそういう一定の課題があるという部分については、担当課としては、新たに議論をする必要性があれば、当然に改めて、意見交換も含めまして、考え方の整理をしていく必要があるであろうというふうには、考えているという状況でございます。

会 長	<p>今の市民活動・相談課での見解と、教育委員会としての問題についての考え方という、教育委員会としての見解と、両方述べられたと思います。各々についていかがでしょうか。それとその二つは、ほぼ対立するものではないというふうに、聴いていて思いましたけども、今後ここで議論される校区の問題についての、色んな議論がこれにどう絡んでくるのかということ。今のご報告の範囲において言えば、私の理解はコミュニティの変更等について、相談課としては何らかの原則設定なり、方向付けをするという意志はあまりないということだと思います。ただ言えますことは、これまでその手の議論はなかったという問題もございます。従ってこれは、色んな経緯の中で考えるべき問題部分もあるかと思えます。こういう問題は、言ってみれば次々に問題の出現がありますが、事件として一つずつのものがでてくると、問題が出てきたときにそれを捉えるフレームの方も違ってきているという議論と、二通りあるかと思えます。今日は幸い二つの担当部局での意見交換が行われたということを機会に、少し委員の方からの質問なり、あるいは二つについての仕分けの部分のご質問なり、いただけたらと思います。</p>
委 員	<p>事務局のおっしゃることはその通りだと思いますが、我々が日常活動していることについて、一番犠牲になるのは子ども達になるんじゃないかなという気がするんです。さっきからおっしゃるように、別にコミュニティは、例えば東谷から陽明の方に移らなくても、今まで通りでいいじゃないかと、今まで通り東谷と。ところが、例えばの話、子ども達は陽明に行ってるわけでしょう、コミュニティは大人も含めてですけど、子ども達の関わる行事というのは、非常に多いんですね。そうすると、前にも申し上げましたように、東谷の行事と陽明の行事、あるいは牧の台の行事というのは、同じ日であったりするかもしれないし、また別の日であってもですね、親は東谷のコミュニティとしての活動をしている、子ども達は牧の台とか陽明の活動をしなければならないわけでしょう、友達とか学校の関係で。だから、親と子の分断と言えば大袈裟だけれど、犠牲になるのは子ども達だと。大人は割り切って、今は牧の台に行ってるけれども、元の通り東谷だということで、東谷の活動に入って、そしてまたそれぞれ役員もしたりして下さってるわけですね。今までにもそういうことがあったんですよ、長尾の地区がね。長尾の地区は、子ども達は牧の台、大人は東谷だったんです。東谷の学校開放だとか、色んな行事がありますね、大きなイベントがあったり、親はそちらの方に出るけれども、子ども達は友達がいらないんだから、あまり来ませんね。子どもにすれば、親が来るからついて来てるぐらいで、面白くないですね。結局はさっきから申してるように、東谷の子は、体育祭なんかでわいわい楽しんでも、牧の台の子は、お母さん、あるいはお父さんと、東谷の体育祭に出ているけれども、子どもがあまり関わりがないというようなことにもなるんです。現実的に長尾はそうだったんですね。お母さん達が困られ</p>

たんですね。前にも申し上げましたが、長尾の方の子どもは牧の台に行っている、そこのお母さんが牧の台のPTAの会長である。ところがPTA会長であるお母さんは、コミュニティは東谷だと。こういう歪なことが起こって、そのお母さんだけではなくて、あらゆるお母さんが困られたんです、今もそれが続いているんですけどね。だから、この間からの皆さんの発言を聴いていて、同調して下さっている発言もあれば、ちょっとコミュニティというものに対する認識の度合いが、違うなこれは困ったなという発言もあり、私はコミュニティとして出てるし、また地域で会長として一所懸命やってるし、幸いにして発展的にきてるわけなんですけどね。これが線引きであつさりと、来年度からあっちに行きなさい、再来年度からこっちに行きなさいと、というようなことになってしまうと、地域の人が怒るんです。というのは、歴史的なものもあれば、心情的なものもあるし、新しくできたマンションとか、新しくできた住宅街なら、線引き、1丁目が2丁目になっても、皆さんそう感じられないんじゃないかなと思うんだけど。田舎というところは、そういうわけにはいかないんです。人数の関係で陽明の方に行かないといけない、でまた陽明から緑台中学校に行くと。中には緑台中学校に行ったらいいかなと思って、密かに喜んでおられる方もいるかもしれませんが、しがらみといいますか、田舎の心情的なものを簡単に割り切ることは、出来ないと思うんです。子どももかわいそうと。

会 長

委員のご指摘は、子どもの方にこの問題が実際に起る場合について、慎重に配慮、真剣な議論をすべきであるという主張が、大変明快だったと思います。

長いコミュニティの歴史を踏まえた議論というものと、子どもの方の様々な学校生活、地域生活との関係をどう見るかということで、川西市についていえば、普通に世代という言葉を使いますが、これはまあ、25年から30年ぐらいで一世代と考えますと、開発を含めたこういう小学校区の設定を第2次大戦後、二世帯近くやってきておるわけです。それらを今どこへどういうふうに持っていくのか。日本全体でいいますと、10人いたところが、5人ぐらいになってしまうという、子どもが非常に少なくなるという地域が相当多いということです。川西市につきましては、色んな変化はありますが、相当長期にわたって多くのお子さんがいらっしゃるという経緯を、他のところよりも辿ると思うんですね。この問題は、もう既に随分と人口が少なくなってるとかですね、そういうところもございますので、その点ではむしろ、川西市としての総合的な学校の廃止と施設の問題というものを、割とバランスの問題として考えられるということは、お子さんがいらっしゃるということなんです。このコミュニティの問題というのはなかなか悩ましいところがありますけれども、これだけの広い地域に、様々なところに小学校、中学校を配置しているという現状ですね。これをベースにして考えられるということは、

<p>委員</p>	<p>他の地域のような統廃合優先、なにもしなくても統廃合という議論とはちょっと違うということですね。</p> <p>私自身の意見が、前回かなり矛盾していたと反省しまして、訂正をさせていただきます。一番最初の話の中で、小学校、地域の学校はですね、地域が守っているんだという発言をしましたが、やはりこれは一番重要だと思ってるんです。地域が学校を大事にするという考え、これは別に世代に関係なく、若いお母さんだけではなくて、お年寄りでもそれは持つべきものだと思います。コミュニティのビジョンとして。私があまりにも妥協案にこだわりすぎて、地域の方と小学生とは別に考えたらどうだという発言を、途中でしてるんですけど、やはり学校を地域の方が守るという気持ちで言えば、委員が今もおっしゃったように、やはり親と子どもの行動パターンが、違う方向に行くというのは良くないと。あくまでもワンセットで考えるべきだということ、訂正しなくてはいけないと思いました。それじゃあどうするんだということになったら、私どもの経験したもめ事になってしまうんですけども。これは最終的には住民の方がそれを望むことになるんだとしたら、住民の決断にならざるを得ないのかなとも思いますが、妥協案ではなくて、ワンセットで何とかならないかなという考えでいきたいなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>事務局、市の方に質問なんですけど、先程舎羅林山の大规模宅地開発再開で、校区設定がまた必要という話だったんですが、北小の地区で言うと皮工場の跡地が、開発するといって未定になっているんですね。私が知っている将来像では、ちょうど火打の北小校区に高層マンションとかが建つ、遊歩道ができるみたいなことを、昔聞いたことがあるんです。今はまだ全然白紙だと思うんですが、そうなったときに例えば、3年とか5年後にまた北小校区が見直されるとか、明峰と桜が丘と北小でもう一回考えなおさないといけないとか、それぐらいの頻度で、また校区の変更をしないといけないような感じなのか、それとも校区変更は一回したら、しばらくはまた触りませんみたいなね、これだけ大変なので、コミュニティとの関係もあるので、3年ごとにやっぱり子どものニーズによって、見直しが必要なんですというのか、その目途というか、姿勢というか、そういうのをお聞かせいただきたいなと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>非常にお答えしにくいと言いますか、難しいご質問なんですけど、当初1回目の校区変更を提案させていただいたときに、申し上げたことの繰り返しになりますけれど、基本的に校区変更というのは、そんなに簡単にできるものではないという理解をしております。提案する限りは、一定の期間と言いますか、特別な状況変化や問題がなければ、そのまま継続をしたいということをございます。ただ、我々が今現時点で分かりうる予測に立った中で考えていかざるを得ないというのが、どうしても前提になってしまいます。そういう意味で、今おっしゃられた北小校区なんかにつきましては、今我々が把握でき</p>

	<p>る状況が、全く無いんですね。今おっしゃられた、高層マンションが建つというのは、今計画には全くございませんし、今度どの様な形になってくるかというのも、全く見えない状況ですので、当然その状況変化によって、学校が困る、教室がありませんよというようなことがあれば、対応しないといけないという状況にはなります。現段階での校区変更というのは、少なくとも今現時点で、予測しうるものを、提案させていただいているという状況でございます。今特に問題になっております、東谷地域の部分につきましても、非常に大きな提案であるというのは、理解をしておりますし、認識もしております。ただ、将来的なことを考えたときには、こうせざるを得ないだろうと、状況が変わったらまた元にしたらいいやという考え方ではございません。そういう一定の予測に立った中で、分かりうる範囲での定着を考えていきたいというふうには、考えております。</p>
<p>会 長</p>	<p>今のところは、各々の地域及びその学校ごとの違いの部分で、可能ならば、あまり大きな変更をたくさんやるというふうには考えないで、全体のバランスをとってやりたいというお話だったと思います。このところで、長期的に見て、小学校、中学校の構成がですね、全国的な問題として言いますと、私立の比率が急激に高まっている地域もございます。そういった動向はどうかということとかですね、小中と高校のところでは進路選択が概ね行われるのであるとかかですね、様々な問題があります。そういった関西全体での動向なり、全国動向でも連動するような、私立関係及び接続の一番の勝負が決まりそうな部分についての予測なんかは、どの様に思っておられますか。これは、ここでやるべき議論かどうか分かりませんが、このところ新聞を見ますと、こういうことがたくさん出ていますので、ちょっとご意見をお聞きしたいと思っております。</p>
<p>事務局</p>	<p>今手元に数字を持ち合わせておりませんので、具体的には、何パーセントとかは申し上げにくいんですが、基本的に川西の周辺には、私立の学校が非常に限られております。ですから、他市に比べてもかなり数字的には低くなっております。小学校でだいたい全市平均的に、2、3パーセントでございます。ただそれも、距離のこともございますので、能勢口周辺では少し高くなりますけれども、北部地域になりますと、下がってくるということでございます。中学校につきましては、当然小学校と同じく、地域的には中学校は近くにはないんですが、中学校は年齢的なことがございまして、遠距離の場合でも通学が可能というようなことで、少し比率は上がってまいります。全市平均でだいたい10パーセントでございます。これは小中共に、ここずっと10年以上だいたい変わっておりません。急激に伸びてくるかという状況も、今のところは見えておりません。また、20年度から宝塚に関西学院の小学部ができますので、編入も含めまして、新たな入学手続きの処理が来ます。その部分で若干の増が見込まれる可能性はあるかと思</p>

	<p>いますけれども、将来的に見て、そんなに大きな変化はないのかなというふうには見ておきます。</p>
<p>会 長</p>	<p>この辺りの問題は、関西全体として言いますと、中学校から高校のところの地域間の流動性は、相当高いところに行くだろうと予想されます。それはそれとして、今の川西市として考えなきゃならない中学校は、10パーセントぐらいの移動はあるんだということですね。これは一つ的前提条件として、審議会でも一応踏まえておいた方がいいという事実だろうと思います。今まで色んな事実確認と、制度的にどうみるのかという議論が、相当でてきておりました。</p>
<p>委 員 事務局</p>	<p>先程から言っている、舎羅林山というのは、どこにある山なんでしょうか。 能勢電の平野駅の北側になります。</p>
<p>委 員 事務局</p>	<p>開発規模というのは、何戸位なんでしょうか。 今現在、開発業者の方から協議を受けている状況なんですが、示されている戸数的には1,500戸を少し上回る程度でございます。</p>
<p>委 員 事務局</p>	<p>学校予定地というのは、特になんですか。 通常でしたら、大型団地の開発がある場合は、公共用地と言いますか、特に小・中学校用地を当然設けるということで、過去川西において、一番最後、日生地域が最終の団地ですけど、それを含めましてずっと継続している状況です。当然、それが前提になるわけですが、今回、戸数が1,500戸程度と申し上げましたが、1,500戸で考えたときに、小学校では児童の発生率を経験則、実績からみまして、高く見て0.2、そうすると、児童数はざっと300人となります。300人という事になると、平均すると1学年50人程度になり、クラス数は12クラスになります。ところが1,500戸が最大の戸数になりますので、それ以上増えるということが無いわけです。ですから、12クラスが仮に出来たとしても、12クラスを超えることが、あり得ないというふうに見るべきなところなんです。そうすると、学校運営そのものが成り立たない。逆に言えば12クラスから減少していく可能性があるわけですから、学校を建てるということについては、馴染みにくい。中学校についても、1,500戸程度では、小学校でそういう状態ですので、当然無理ということでございます。そういうことも背景にあり、開発業者の方も、小学校用地を確保しなかったわけです。今のところ教育委員会としては、それに対して小学校用地を設けるべきであるというふうには、意見は申し上げていない、いわゆる学校を建てるだけの規模ではないと、判断せざるを得ないという状況でございます。</p>
<p>会 長</p>	<p>この問題は、なかなか悩ましいところがございます。今説明にもありましたように、学校建設の用地はあります、準備はしますという話は、実は非常に難しい問題がいっぱいあるんです。そのような場合、団地造成の後、10年ならずして、皆さん年齢が上の方</p>

	<p>になられまして、学校は誰も行く人がいなくなるとかですね、全国的な色んな事例で言いますと、適正規模の場合に対応可能であり、且つ一定期間保つことは可能なんです。しかしそれよりも少し下回った場合、どうするかという問題は、自治体側が先程の協議もそうなんですけども、他部局と話しながら、何らかの形で、安定的な設計をせざるを得ないというふうになるわけです。そういうサイズの問題が一つあるということで、これは教育委員会としては、なかなか難しい選択といえますか、計画設計を迫られているという部分もあると思います。</p>
委員	<p>参考にですね、1,500戸で最大300人ぐらいの児童が入ったときに、牧の台もしくは緑台小学校、この二つに収容キャパがあるのかどうかというところが、次に問題になってくるかなと思うんですが。今牧の台は建設をしているところだと思うんですが、その辺は考慮してされているのか、していないのか。実際受け入れできるのか、できないのか教えていただけますか。</p>
事務局	<p>改修工事については、配慮は致しておりません。牧の台小学校、あるいは緑台小学校という話もございましたけれども、今の考え方の中で、困って増築をしないとイケないとか、校区変更をしないとイケないということには、ならないと基本的にはみております。ただ具体的にまだシミュレーションしておりませんので、次回追加諮問させていただく段階では、どういうふうな形になりますというのは、資料としてご提出をさせていただきたいと思います。</p>
委員	<p>先程おっしゃいました、0.2をかける300人という数字は、全部が揃っての話ですよ。1,500戸全部が揃ってからの話で、これ何年間かにわたるその開発があって、販売も何年にもわたってくるわけですよ。そうすると、それだけの人数が一度にいるかと言ったら、そうじゃない状態になりますよね。もうちょっとスローなペースで進行していく話だと。</p>
事務局	<p>今回の校区変更にも付けております、推計の結果ですが、この数字には、例えば北陵小学校なんかについては、新たに開発が、販売が始まるということ、年次的な戸数を加味しておりますので、推計数字というのは、基本的に徐々に上がっていくという形になっております。ですから、今おっしゃられたように、新たな舎羅林山の開発につきましても、最終的な推計をどうしていくか、牧の台小学校をどうみていくかというのは、数字としてはできます。ただ、我々が予測するのは、最大のものが受け入れできるかどうかということを見ますので、いつ到達するのかというのは確かに大事なことですけれど、最終的に到達する限りにおいては、どうなるかという形で見たいと思っています。</p>
委員	<p>この地図を見ましたら、第2名神高速道路、これがちょうど、文珠橋というところを通</p>

事務局	<p>る、まさしくこの道になるわけですね。これはどういう関係になるのでしょうか。高速道路ができた場合、道の関係はだいたい予測とか、安全確保できるのかとか。</p> <p>ここの団地の中は、かなり深い地下を通るんですね。基本的に、団地そのものに影響を与えるということはないという前提でございます。西畦野辺りにつきましては、かなりいろいろ周辺道路が整備される可能性はあると聞いております。</p>
委員	<p>東谷の件の通学路になろうとしているところが、これとぶち当たるところですよ。安全確保のどこにいくわけでしょうか。</p>
事務局	<p>具体的にどう周辺道路が整備されるかということは、今のところ詳細が分かっておりませんので、その部分でその先を見て、通学路が安全かどうかということは、今の段階では判断できません。</p>
委員	<p>安全云々よりも、第2名神が通れば、開発が起こってくるんじゃないかという気もするわけなんです。現に西畦野の数軒は、もうかかってますよという話は受けてるようですね。けどもそれは、いつするのか分からないでしょう。来年、再来年ぐらいに着工ならば、校区変更とおっしゃるのも、私も分かるし、恐らく西畦野の方々も、そういうことを見越してと、ある程度納得はなさるでしょう。ところがいつ名神ができるのか、分からないですよ。ただ測ってみて、あなたところは引っかけますよと言ってるだけのことで。だから、近い将来にそうなるんだったら、私も必死になって、抵抗というわけではないけれども、言う必要もないですよ。舎羅林山もそうですね。舎羅林山のところを通過して、山を抜けて、そして東畦野、西畦野のところに出てくるんですけどね。いつするのか、それがわからないからね、現に今、来年、再来年の話をこれしてるわけですから。それと高速道路との話は全然合ってこないですよ。これが似たような時期にということになれば、線引きも必要かなという気にはなりますね。</p>
会長	<p>今色々な意味での計画の重なりとですね、校区審議会としては人口の移動が、いつの時点でどの様になるかということを中心に、色々な計画なりやっていくと思いますが、特に今話題になっています、開発の問題については、言ってみれば校区審議会として議論する話の、数年前のころのステップで話がもう話題化している。名神の話については、もう少し時間が長いものとして存在していると。こういう事だと思います。</p>
事務局	<p>今委員がおっしゃった部分なんですが、今回の東谷小学校の校区変更案の提案に際しては、お手元にも資料を出しておりますが、今現在、19年度に実施をしました、将来推計を見た中で、緊急性といいますが、明らかに教室が足りないという状況ではございません。ただ、ここ数年の人口の伸びを見る限りにおいて、教室の数に余裕があるというわけでもありませんので、増築ができないというような背景の中で、緊急対応が出来ないのではないかというようなことを、加味したということでございます。ただ最終的に</p>

	<p>今おっしゃったような、第2名神の影響を受けて開発があるのかなという思いを、持っているかと言えば、持っております。可能性はあるだろうと。しかし、それを目指して校区変更を先にしておきたいということでは、無いんですね。ただ結果として、そのことに対応することにもなりうるであろうというふうには、理解はしております。</p> <p>最初に申し上げたと思いますが、20年度に改めて5月1日現在の数字を元に、推計をし直します。その状況というのは、また見ていかないといけないとは、思っております。</p> <p>ですから、過去の状況とは全然違ってきてますよというようなことであれば、様子を見る期間が増えるかもしれませんし、逆にもう少し早く足らなくなる可能性も出てくるということも、あるかもしれません。その辺は当然増えるという推計に基づき、その状況対応ということで、基本的には考えております。</p>
委員	<p>前も言いましたように、忠ならんとすれば孝ならずで、孝ならんとすれば忠ならずですか、本当に私自身発言も、それから進退も極まってるんですけどね。こう言えば事務局の方は困られるだろうし、と言って地域からすれば、なんとか阻止というのはおかしいのかもしれませんが、そういう発言をしてきてもらいたいと。役員の意見を聴くと、そんなの簡単に乗ってきてもらったら困るということですね。まあさっきの事務局の説明で、やっぱりちょっと加味はなさっておるけれども、だからといって、線引きと高速道路とか、舎羅林山のこれとは直接整合してないと、こういうことなんですね。</p>
委員	<p>東谷の方のある一部の人が、えらい事になったということで、かなり情報が回って、あちこちで議論があったとか。</p>
委員	<p>インターネットというのか、ホームページみたいな、そんなのでちょっと知ったとか、あるいは議員のところへ聞きに行ったりね、ひょっとしたら教育委員会にも議事録を出せとか言って、えらい怒っていった人があるんじゃないかなと、思ったりもするんですけどね。これね、皆さんは直接関係ない所だから、こんな私のように必死になられないかもしれませんがね、そこに住んでる者としてはね、やっぱり、ああそうですか、じゃあ線引きでされたらよろしいですよ、なんていうようなことは言えないんです。</p> <p>前はね、牧の台は東谷の地域だったんです。東畦野であったんですけどね、大和団地ができて、牧の台小学校ができて、それまで東谷小学校におった子が、ぱっとそっちに移りました。ただしその子は、大和団地に住んでるからそっちに移ったわけですからね、納得は充分されてると思います。</p> <p>北陵の場合は、民家がなかったんですね、あそこは一庫なんです、北陵の地域のほとんどは。そこは民家がなかったから、校区を選ぶというような問題は無かったんですが、今度については、状況が全然違うのでね。それが、いや来年辺りから高速道路の工事が始まるとか、そういう話があるなら、私はとやかくここで言う必要もないし、何をかい</p>

<p>会 長</p>	<p>わんやですわ。</p> <p>長期に関わる大きい規模の開発だったら、小学校1校分造るくらいのマスでやってくれと、その半分も駄目、その2倍も駄目というふうにですね、話が出来れば簡単なんですけども、しかし個々の開発については、会社の事情もございますし、ルール設定もございます。その上でとりわけ交通事情に影響を及ぼす、高速道路というふうになるわけですね。私は、この校区審議会が扱うべき問題は、相当限定的な通学に関わること、公立小中学校間の接続に問題の無いようにするということと、限定的に思っています。その限定的なところを、どういうふうにしていくかということ、既に確定しているところの、お子さんの人数の部分から切断して、判明したところで微調整しながら進んでいく。言ってみれば、大規模なビルディング工事ではないんですよ。一戸ずつ、庭の仕切を作り直すような、細かい仕事、これをやっていきながら、色んな変化を吸収できるようにし、学校の運営と地域のサポートを調整できるようにしていきたいと、これがここの仕事になると思います。ですから今、不確定あるいは大きいものが話題になり、実際の動きがスタートしているらしいという部分のお話も今日いくつか出ていますが、これらは、やはり住宅及び様々な作業構造物が出来てくるというプロセスが、確定した時点で、それを数年後の後の予想の中に入れていくということになると思うんですね。この点で言いますと、ここをどういうふう調整していくか、どの様に変化の部分の校区審議会の中に議論に入れていくかという、なかなか難しい所があると思います。ただ言えますことは、学校というのは非常に不思議なものでありまして、普通に言うと居住に伴って直接に学校のサイズが決まるように見えますが、個々の校舎の状況によって、伸縮度がまるまる違うんですね。崖っぷちに建ってる学校は、改変のしようがないわけです。そういう学校施設としての固有の問題とか、色んな経緯とか含めてですね、今日はコミュニティの方から、簡単に考えて欲しくないというご意見も出ておりますけれども、建物もまた言ってみれば、軌道修正があまり効かないようなものが、結構ございます。ここら辺の所も、多分事務局の方が相当悩みながら、色々選択しているところだろうと思います。</p>
<p>委 員</p>	<p>先程幼稚園の園区のことをおっしゃいましたが、例えば東畦野山手は、牧の台幼稚園へ行くと、西畦野の方は松風幼稚園へ行くと。幼稚園も同じように、お兄ちゃん、お姉ちゃんと同じ方向へ行くんだから、それはそれでいいんだけど、前にも申し上げたように、危険ということと、遠方になる。能勢電沿線の東畦野山手というのは、ちょうどトンネルがあったり、山の下を電車が走ってますよね。あの山の上に立ってるところなんですよ。そうすると、山を下りてきて国道を越えて、牧の台の方へ行かないといけない。西畦野の方は文珠橋がありますね、あの文珠橋を越えて、いろは坂を上ると、山際をね。そして陽明小学校あるいは松風幼稚園へ行かないといけない。わざわざ線引きをす</p>

	<p>ることによって、危険を伴うような結果になるということも、心配なんです。地図上で見れば、近いように見えるでしょうけども、決して近くないですよ。そこを歩いてぐねぐね曲がって、あるいは山を下りて、国道を越えて、坂道を上がって牧の台小学校とね。牧の台小学校は、今度新しく増改築し直すんですね、耐震の関係で。だから校舎そのものは良いところに行くということになるんでしょうけど。</p>
会 長	<p>すいません、今のお話を理解するのに、一番適切なのは、何ページのどれですか。上から見たらあまり違いが無くてというところをね、高度で見ればいいわけでしょう。</p>
委 員	<p>12ページですか。</p>
委 員	<p>松風幼稚園の位置がわかりませんよね。</p>
委 員	<p>松風幼稚園は、西友よりももうちょっと坂を下りていったところで、ちょっと見えにくいところにあります。平野から上がってもだいぶあります。</p>
委 員	<p>直線で2,000メートルぐらい。</p>
委 員	<p>今おっしゃってたように、西畦野から松風幼稚園に行こうと思ったら、すごい山道をうねうね登って行って、真っ直ぐ行って、まだ下らないといけない。幼稚園は徒歩が原則とされておりますので、行こうと思ったら、ちいさい子どもを連れて、まだ下にお子さんがいるとなれば、なかなか1時間弱はかかるかなと。たぶん行かない、行けないと思います。</p>
委 員	<p>やはり事務局も、スライドか何かに写してもらって、目で分かるような形にしてもらわないと、ちょっと資料不足と思うんです。視覚的に見せていただくのが一番だと思うんです。</p>
委 員	<p>それと田舎的な発想で悪いですが、生活圈もだいぶ違うと思いますよ。生活圈の分断になるという心配もあるんですね。</p>
委 員	<p>この問題は、どこにスタンディングポジションを持つかによって、全然見方の違う話になってしまうんですね。恐らく事務局の方も、多分これは困ってることだろうなと。じゃあこれを市民活動・相談課に持っていったら、これはこれで困る話に多分なるんだろうと。まず整理をしていくと、ポイントは子どもの数が増えて行って、学校は対応が出来なくなるんですよ。この問題が、一番大きい問題ですね。これを解決するための会議であろうと、こういうふうに僕は理解をしています。そこに関わってくる問題は、じゃあまずどういう問題があるのかというところで、保護者として、まずは今まで行ってる学校の校舎を増築するなりなんなりしてね、それが一番です。それが絶対出来ないのかどうかというところの議論は、多分もう終わってるんですよ。お金がないのか、建てられないのか、東谷は僕も随分前から建てられないという話を聞いています。例えば、学校の近く、前の土地を誰かが明け渡してくれて、校舎が増築できるのであれば、是非</p>

やって欲しいんです。地域も揉めずに、今までの生活圏も変わらずに出来る話ですから。でも子どもがここでは、60人も70人も一つの教室で授業を受けないといけないとなると、これはちょっと勘弁して下さいという話を、せざるを得ないですね。そこで、問題を段階的に整理してもらって、やっていかないとまず無理ですね。100点はあり得ないですね。まずは、線を変えることでクリアできる問題と、お金さえ積めば何とかなる問題とに分けるわけですよ。お金が無いというんだったら、何とか線でやるという話に多分なってくると思うんですよ。実際問題川西小学校も子どもの数が、当初の計画とまったく狂って、学校の中で教室が足りないという問題に発展しました。これは、校区は変えずに子どもが増えて、飽和状態で、だから校舎を増築しろ、増築しろと言って、5年掛かりぐらいでやっと決まりましたけど。あれも最初の段階で建ててくれていたら、そんなにお金使わないで済んだのにとかね、僕らはそういうふうを考えてしまうんですけども。問題が出てきた、直面した瞬間に、その問題に対応していくというのが、行政のやり方でしょうね。計画性の部分が非常にむずかしいと思いますけど。

まずは線引きですよ、お金はもう無理なんですよ、お金は無いんですよ、校舎も建てられないんですよ、そこを無理と言ってくれないことには、次の段階にはなかなか進みにくいんですよ。崖っぷちに僕らが追い込まれた状態にならないと、地域の人達もなかなか動いてはくれないですよ。だから今崖っぷちですよと言っていたかないと、多分自分達の問題としては、すんなり受け入れてもらえない。保護者としてはですね、教室がありませんといわれたら、それは困ると、いきなり崖っぷちですよ。僕らはすぐ崖っぷちになることが出来るんです。だから、それは困りますと、もう何とかして、子どもが同じ条件で教育を受けさせてくださいと、この話が進みますね。幼稚園の問題は、今日初めて聞いたので、幼稚園はわざわざ無理矢理、小学校の校区に合わせる必要があるのかどうかという議論は、もう一回見直した方がいいのではないかなと、僕は素直に思ったんですけど。

事務局

今ご指摘の中で、建てられないかどうか、お金がつき込むことができるかどうか、という話がございましたけれども、当初提案させていただいたときに、ご説明をした繰り返しになりますが、教室不足が見込まれる予測という部分で、推計をだした中で見ていっているわけですね。その中で今回校区変更の提案をさせていただいた、明峰小学校、東谷小学校以外にですね、あるいは清和台南小学校でありますとか、けやき坂小学校でありますとか、あるいは北陵小学校があるわけです。正直申し上げて、可能であれば校区変更を全てしたいんです。何故したいかと言うと、お金がないからです。無尽蔵にお金をつぎ込むことが可能かどうか、それと将来的なことで、本当に一時的な対応の場合も、学校によってはでてまいります。そういう意味では校区変更をする事を視野に入れ

ないといけない部分があるんですが、校区変更するには、ある一定の条件というのが当然ありますので、その中で見ていった中では、無理だなというのが、今回提案に至らなかった部分の学校なんです。それについては当然もしそうなってしまえば、なる可能性は今の段階では高いですけども、増築もやむなしと。もしくは、とりあえず一時しのぎで、本来は別の目的に使用している部屋を、教室に転用しないといけないということの対応を迫られるわけです。ですので、基本路線というのはやはり、お金がある無にかかわらず、お金をかけないで済むのであれば、それが一番良い方法なわけです。今回それ以外にお金をかけないといけない部分があるから、どうこうというわけではないですけども、やはり財政的な負担というのは考えていくというのが一点あります。

少なくとも東谷小学校の校区変更については、お金の問題以前にですね、敷地の制約の問題がございまして、もちろん今、新たな土地をとという話もありましたけれども、敷地そのものがございませぬ。今現状の中では、建築基準法の問題もあって、基本的な増築は、技術上というよりも、制度的に無理なんです。そこの部分というのは、やむを得ないと言いますか、それしか選択肢がないと。もし学校の教室が足りないということになれば、教室が増やせないわけですから、校区変更しか方法がないと。先程申し上げた、緊急避難的に、普通教室以外に目的がある部屋を普通教室にしてしまうということの、是非の問題というのも出てこようかと思えます。それと、その中で35人学級という、少人数学級編制という部分が今年度から、20年度から4年生まで拡大されます。だから、1年生から4年間、これ以上はいかないみたいですけども、しばらくは、この4年間の中で一定の人数があればですね、当然少人数学級を選ぶことができるんです。その為にはやはり、教室が無いと出来ないわけですね。そういう意味では、推計をだしているのは、いわゆる40人学級でしか推計をだしておりませぬけれども、少なれば少ないほど、35人への転用は難しくなる、そこら辺のバランスの問題ということです。

あと、幼稚園の件ですけども、追加と言いますか、我々の方で漏らしておいた部分については、大変申し訳ありませんでした。資料がないということについては、改めてきちっとした形でださせていただきたいと思えます。幼稚園の考え方については、色々あるかと思えますが、もちろん我々の提案ということですので、当然審議会の方でご意見が違えば、違う方向ということで、答申はいただくということになります。なぜそうしているのかと言いますと、もちろん通学距離が遠いといった実情とかは、あろうと思っています。ただ、その小学校へのリンクということ、前提には考えておりますので、通学の問題を、ぎりぎりの線であったとしてもクリアできる限りの中で、小学校へのリンクというのを優先することも必要であろうと。これが良いというわけではもちろん無いのですが、園区外制度を今とりあえずは持っておりますので、一定の事情の中で、東

	<p>谷幼稚園を希望されるということについては、もちろん定数枠の中での範囲ですので、皆さんが必ずしもということでは、無い場合というのはありますけども、その人の意志によっては、一定の選ぶ手段は残されているということも含めて、制度運営をしていきたいと考えております。</p>
<p>会 長</p>	<p>今のところででました、委員の問題提起、要するに、線引きなのか金なのかということについての答えといいますか、事務局の説明はですね、お金をかけないで済むことならば、やることはしたいけども、それでは済まない部分についてのみ提案をしていると。提案といいますか、重大部分についてはそれ以外の手でやるという。しかし、なお校地及び校舎の建築上の問題があるということで、やっているという説明でした。だから、もう既に色んな意味でのお互いの議論が、どこのところはどうしようもないとか、次は可能だとかという議論も含めてやられてるということが、大変重要な論点だと思います。それともう一つは、新しい開発並びに大規模工事により、かかってくる網は、もうちょっとレベルが高いものがあるわけです。ですから私らは、可能なものを組み合わせながら、年次的に努力しつつ、より大きい網がかかってきた場合は、それはそれとして、何年間か先のことなんだけど、しっかり議論に入れていきたいと思います。先程から、事務局の説明を求めることが多いのですが、言ってみれば、選択肢が可能な部分については、序列を付けながら考えはじめていると、こういう段階だということで、全部はまだいけてないというふうに思いますので、議論を詰めて考えながら、長期的な展望も視野に入れて、というふうに司会としては思います。</p>
<p>委 員</p>	<p>東谷小学校の体育館の側に農協があるんです。あの農協は一切使っていないんですよ、あっちの方の金融機関のところだけで。こちらの方は今までは肥料を置いたり、いわば倉庫であって、あるいは店をしてたんですけどね、スーパーのような。けどもあれは一切使っていない。ああいうところを買えば、お金の問題になってくるんですけどね。あそこへは教室の三つや四つは建つんですよ、鉄筋にすれば相当建ちますね。お金がないんだからしょうがないんですけど。</p> <p>もう一つはね、今の教室で、なにが35人だと、40人でもいいわけですよ。それで、そういう人数のところの学校は、加配というんですかね、先生のね。そういうことで、進めていくという。そういうふうになればと思うんですけどね。土地がないから建てないとか、あるいは買うとすれば、なおさらお金が無いと言うのだったらね。何で35人なんですか、私前から言ってますけど、40人でやっても、45人でやっても、50人でやってもいいじゃないかと。わりあい、いい教育してましたよ、先生らは。</p>
<p>会 長</p>	<p>今日はたまたま年度末なので、学校の先生方がいらっしゃってないという実情もございます。司会としては、討論は、一貫性、継続性、総合性を目指すべく、この議論は、大</p>

<p>委員</p>	<p>変明快なご意見がでたということで、確認して、今日は少しそういう意味での総合討論が、なかなか出来にくい状況がございます。</p> <p>コミュニティとしては先程からずっと言ってるように、やっぱり地域なんですね。地域コミュニティ。そういう意味で、学校を支えていこう、地域子ども達は、私達地域で見ようと。行政からの指導もあったと思うんですが。時代の流れもあるし。そういった意味でやっているのに、お金がないからということで、地域を分断していくということは非常にね、人の心はお金では買えないんですよ。本当にこの組織というのか、繋がりを分断するということ、修復させるというのは、前にも言ったように10年以上かかる、10年以上かかっても未だ出来ない。私は東谷は減る方ですから、まだ問題は少ないと思ってます。問題は増える方なんです。増える方は新参者が入ってくるので。学校教育の方は、地域に助けてくれ、助けてくれいつも言うんですけども、地域に対してそういう感情的な心の問題について、どういうふうにお考えなのか、お聞かせ願えますか。揉めるんだったら揉めたらいいやという感じのことでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今委員の言われている部分について、教育委員会の見解というのは、例えば地域を分断するという考え方を、持っているのかどうかということになれば、持っておりません。コミュニティの問題が、校区変更にあたって大きな過大なるということは、当然認識はしているわけです。ただ、コミュニティを優先をするが為に、学校の教室が足らなくなる状況を、じゃあ放置するかということになると、我々は教育委員会ですから、そのコミュニティの課題というのはもちろん認識はしつつも、当然今、たちまち困ることについては、排除しないといけないというのが、我々の立場なんですね。そういう意味で、そう考えています。だからどう調整していくかというのは、当然ご議論もいただかないといけないし、先程言いました、コミュニティを担当している担当課と、話をしていく必要もあるかと思っております、そういう意味ではね。ただ教育委員会として、一番言えるのは、コミュニティのあり方について我々が斟酌することは、当然思っておりません。課題は課題として受け取らせてはいただきますけども、ただ、教育委員会として、子ども達の教室を守っていくという、実情そのものを回避するということにはならないんですね。現実的にお金を出せばいいじゃないか、もっと違う方法があるじゃないかという考え方が、もしあるのであれば、当然それを考えていかないといけないとは思っております。ただ今我々が思いつく中での案というのは、やはり将来的なことをみて、校区変更があるだろうということでの、提案をさせていただいております。</p>
<p>委員</p>	<p>そちらのコンセプトは、重々分かってるんです。分かっているで敢えて言うのは、私達コミュニティがここで分析する意義っていうのは、何なんだろうと思うんですよ。いくら聞かれても、やっぱりコミュニティはこういう答えしか出てこないんですよ。</p>

委員	<p>今日事務局が冒頭におっしゃったように、市民活動・相談課と検討会をなさったと。いくつかのパターンがでてまいりましたでしょう。その中ではやはり、住民側の意見と言いましょうか、それを尊重しろという、これも非常に正しいと思うんです。まずそれは置いておきます。今校区審議会をやっていますけど、川西市の学校教育の全体像、これをお話するのは結構なんですけど、今の問題は端的に言うと、東谷小学校の問題に固まってきたように思うんですよ、今日の場合は。そうしたら、全体で集まったって無理なんです、この話は。例えコミといたって、たまたま三人おりますけれども、それぞれの立場も違います。この場合、話をどんどん進めていくなれば、あんまり全体でやってしょうがないんじゃないですか。もうちょっとこう分割というんじゃないけど、ローカルの話されたらどうなんでしょうかね。そうしないと、いくらやって話解決つかない、進まないと思います。</p>
会長	<p>今、かなり戦略的に重大な問題がでています。この問題については、両方での色んな見通しも含めて議論を進めるというふうにして、まずは確認したいと思います。</p> <p>これは二通り出口があると思います。具体的な戦術としてローカルのものにとり方入り方もありますし、校区審議会としてやるべき議論のエリアと言いますか、その部分はどこまでなのかという議論についての、委員の各メンバーの総合判断も入ると思うんですね。両方でやって、行き着くところで、どこかに落ち着けばいいわけですが、仮に二つが完全に分かれる形になったとしても、相互にどうい議論が可能かということ、ちょっと粘り強くと言うと変なんですけど、時間はそんなにないんですけども。ずれを残したままでも良いですから、意見を述べていっていただくという事にしたいと思います。お願いします。</p>
委員	<p>住民の意思、これが一番大事ですね。ただし、住民の意思でいくと、OKがでるところと、さっきから情動的にどうのこうの、あるいは生活圏の問題でどうのこうのと言ってる、東谷の方なんかだったら、まだ皆には聞いてませんが、OKはでないと思いますね。だからOKがでるところ、そのままいったらいいわけなんですけど、でないこれはどうするか。これは教育委員会としては、強権というか、そういうものを発動していくのかどうかですよ。ここのところは難しいと、私は思うんですけどね。</p>
事務局	<p>先程会長や委員がおっしゃっていただいたんですけども、校区審議会で何を議論するのかということになるかと思うんですね。当然地域の代表の方にきていただいて、PTAの代表の方にきていただいて、学校現場の方にきていただいて、という形で現場的に言うと、三者三様でなおかつ学識の方にきていただくということなんですけども、要はそれぞれの意見が当然異なるわけですね。やっぱりその見方によって、当然地域から見た校区、PTAから見た校区、学校から見た校区のあり方というのは変わってきて、その</p>

中で我々とする、校区審議会として議論をいただいて、一定の答申を、いわゆる答えをいただくわけですね。例えば、その地域の方にとると、我々と考え方の違う答申になる。あるいはPTAから見たら、それは我々からすれば、望んでいない答申になるかもしれない。学校もそうですね。これはあくまでも、こうして欲しいということではなく、理解いただきたいんですけども、議論をする中で、当然意見という部分は出てこようかと思うんですね。例えば、一つの答えとして、校区線引きそのものはOKだけれども、こんな事を考えておかないといけないよという様な、ご提案をいただき、我々が答申を受けるとするのは、あることだと思うんですね。もちろんまず、通学路設定、通学上の安全を踏まえて考えていく。それは我々もそう理解しております。今回の変更案が、前に比べてどうかは別として、少なからず安全確保がなされない校区であると、これはペケですよという様な、答えもあろうかと思えます。それはそれで一つの答えだと思うんですね。ただじゃあOKですよとなった場合でも、皆さんが全員一致で、拍手喝采ということには、ならないと思います。そこには、付帯意見という言い方は良くないのかもしれないけれども、教育委員会が考えておくべきものを、ご提示をいただくことが、一つの答申の内容でもあるのかなと、理解しております。今後どういう議論が進んでいくかは別としましても、そういう部分で、その答えが皆さん絶対的に一つになるということは、確かに難しいであろうと理解はしております。ただ、難しいけれども必要だということで、地域の方にもでていただいて、PTAの方にもでていただいてという、当然立場が異なるわけですから、その部分で初めて校区審議会が成り立っていると理解をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

委員

この東谷校区の問題というのは、前の二つの問題とは、性質上ちょっと意味合いが違っておるように思うんですね。それをどれだけのウェイトでどう判断するかが決め手だと思います。まず従来の二点について、先に前回までやりました問題は、通学の安全性の問題とか、あるいは通学に便利に近い、そういう比較的合理的な、誰でも納得できる論点でしたので、比較的合意形成がスムーズに行くだろうと思います。けれどもこのコミュニティという言葉はあまり好きではないんですが、村から自然発生的に発生した学校というのがあるんですね。ここはどうかわかりませんので、私も現地を一度非公式にでも、行ってみたいと思いますが、明治の学校制度が出来てから、色々変遷がありました。昭和の初め頃までには、どこの地域はどの学校というのは決まったわけですね。それはやっぱり元の村というのが基準になって、学校が出来たと思うんです。この東谷校区の中に、村落的な発生で校区が出来た地域と、そうでない地域があるとするならば、それは把握しておく必要があると思うんです。本件特に線引きの対象になっておる地域、西畦野とかですね、そういうようなところは、どういうふうにか村社会が形成されて、現在

の校区になったかという、歴史的な事実は無視は出来ないと思うんです。
現在のコミュニティがどうこうというのは、よくわかりませんが、心情的なものというのは、2、3年経つとどうなるというものじゃありませんので、私も村で生まれて育って、村立小学校を出ましたけれど、やっぱり自分の母校とか、初めて行った学校というのは、親も行き、それから祖父母も行きという様な、非常に心情的なもの、合理的には説明できないものというのが、どうしてもあるんです。それは出入りの激しい新興住宅地とかいうものとは、絶対違うものでして、日本人の本当に原点みたいな、本当に大事にしなければならない心の一部分だと思います。

この心情的な面からいいますと、まずお祭りとかですね、それからその地域の行事、そういうものが分断されるのかどうかということ、こういった鎮守の森とか、氏神さんとかそういうものが、がらりと変わるような変更はやっては駄目だと思うんです。

本件の対象となっておる地域が、そんな氏神さんもどっちでもいいと、ほとんど信心する人もいないし、お正月やなんかに神主さんが来てお祓いしたり、そういうこともないという地域であるならば、始めの二点と同様に考えたらいいと思います。何度も言いますが、この地域が自然発生的に生まれた、子々孫々の学区であるというのであれば、やっぱり現地を一度見て、どちらかというとは私は、否定的なこの心情部分の方を重視して、校区というものを考えたいと思います。

そして、少子高齢化ということになっておりますけれども、実際予測というのは、ある程度眉唾物だろうとは思っています。4、5年先には東谷も、今は満杯でどうにもならない状態ですけど、やがては少子化の方向を辿っていくという予測が、ほとんどの学校で起こってくると思うんです。どこの学校でも。そういう極めて4、5年の目先の事情によって、心情的に大事な校区を、人間の中心部分をなしてる様なところをがらりと変えてしまうというのは、4、5年の間の不便のために、あるいは教育の機会均等と言いますか、教育の平等のために、人数が増えすぎるといふ平等のために、変えてしまうということは、いかなものだろうかという気がしております。

会 長 今の問題提起は、安全性、利便性等々と、同じ様な形で議論する面と同時に、やはり長きにわたって続いた村の様々な慣行、行事等含めて、尊重すべきところを本当に尊重しているのかという、問題提起だったと思います。この判断はどうですか。

委 員 おっしゃるとおりです。西畦野というのは江戸時代よりももっと古く、牧の台はちょうど畦野牧といいまして、千数百年前には、馬の牧場であったところなんです。それが東畦野と西畦野。西畦野には大昔からの神社があります。その西畦野そのものが、おっしゃるように線引きで陽明の方へとうこういうことになってるんですけど。明治の始め、学校制が出来てから、ずっと我々と本当に同じ村の連中が、西畦野であり、山原で

	<p>あり、東畦野であり、一庫であるわけなんです。心情的にも生活圏も、同じ川西ですが川一つ隔てて、陽明の方と西畦野、東谷の方とは全然違います。向こうは新興団地です。こちらは相当古くから、学校制度が出来てからそのまま、我々と同じ一つの学校へ行ってるわけなんです。例えば、一庫もそうですね、北陵の方が近いです。けども、皆東谷へ東谷へ行きます。なぜかと言うと、親の代から、あるいは爺さん婆さんの代から東谷に行ってるから、やっぱり北陵も近くて良いんだけど、そういう歴史的なこともあるんです。事務局のおっしゃることはよく分かるんですよ、私が事務局だったらおっしゃるとおりで。その通りなんですけどね。村に住んでいる我々とすれば、本当に兄弟のようにしてきた村の中の西畦野があっちへ行くのかと。それはないでと。こういうふうに言われるわけなんです。だから40人学級でも45人学級でもいいから、加配を置いてでもいいから、今のように東谷に行くようにされたらどうですかと。35人でもものすごくいい教育が出来たかという、35人でも無茶苦茶な学級もあるし、40人学級でも立派な学級もありますし。ちょっとね、数字だとかそんなもので簡単に割り切りすぎで、まあそうしないとしようがないんでしょうけど、けどもそんなものでは教育はないと思うのであります。</p>
会 長	<p>どうでしょうか、今の委員のお話は原理原則的なところに立ち戻って、慎重な判断をすべしと、こういう事だったと思います。これにつきましては、長期にわたる通学及びコミュニティの様々な結びつきということを、慎重に考慮すべきであるということになるのだと思いますが、いかがでしょうか。校区審議会としての意見をまとめる必要があるかどうかは、わかりません。もう少し議論を続けたいと思います。</p>
委 員	<p>西畦野の方が、どれだけ東谷幼稚園に通っているかとか、ちょっと今のところ把握はしていないんですが、お話を聞いていて思ったのは、幼稚園には新たな園区制度というのがあるんですけども、きっともし校区変更になったとしても、この西畦野の方達は、東谷幼稚園の方に行かれると思うんです。となると、今度小学校は東谷小学校をご希望されると思うんです。その時には5パーセントの枠というのがあるので、もし東谷小学校の人数が多くて、抽選で落ちてしまって、お兄ちゃんは東谷小学校へ、下の子は陽明小学校へということにも、なりかねないんじゃないかなと思います。委員のお話を聞いてると、今までの経緯からいくと、それはどうかなというの、この西畦野に関してはその様に思います。東谷幼稚園も人数が多いので、東谷幼稚園もひよっとしたら抽選になるんじゃないかなという、心配もあります。</p>
会 長	<p>制度のうち、5パーセント枠問題と小学校を含めた、いわゆる空間的な枠取りの問題との調整問題ですね。これは、かなり制度設計と言っても複合的ですので、このところはまだ、年々これを追跡しながら可能性を探っていくというのが、これまでの事務局の</p>

事務局	<p>提案と設計方針だったと思います。すごく単純に言うと、今この決断をしている以上は、5パーセントが10とか15になるということを用意しないと、これは制度設計が不可能になりますということは、これは事務局でない私、司会が言えます。</p> <p>その問題は、校区審議会の議論として、どの様に私達委員として全員が、制度設計を踏まえて、事務局に対してこの範囲内でやってくれと。端的に言えばですね、5パーセント枠を15パーセント枠にしてやってくれと言うかどうかの問題が一つあります。私はこういう事を専門にしてるわけではございません。あり得る可能性として、新しい次元の事を持ち込むということは、新しい制度設計方針をここで討論したという実績を、残すということになるということです。</p> <p>歴史的背景の部分は、教育委員会としても当然認識をし、一番手を付けたくないところに手を付けている状態なんです。平気というよりは、非常に恐る恐るという部分が、あるというのは事実です。歴史的背景そのものを守っていくことも、一つの大きな意義もありますし、重要であるという認識はしております。ただ、結局何故これを選んだかという、背に腹は代えられないというような状況も含めてのことで、委員が先程ちょっとおっしゃられた、いわゆる将来的な西畦野地区の将来像というのもの、今現時点で入っていないと言いながらも、加味はしていると申し上げたように、その予測というのはあるんですね。だから、その部分でやむを得ないというような判断が、現段階での教育委員会の見解と言うことなんです。</p> <p>もちろん違う方法ということで、選択肢を見いだしていかなくてはいけないということも、確かにあるのだろうとは思いますが、今現時点の中ではそういう部分の選択肢しかなかったというような状況です。繰り返しになりますけれども、基本的に東谷地区については、今目の前に困っているという状況ではございません。35人の議論は色々あるみたいですが、35人は教育委員会は当然推進でございますので、よし悪しは置いておきまして、35人という事を、積極的に進めるという限りでは、東谷の緊急率は高いということになるんですけども、35人という選択肢は当然予定はされてますけど、その前にまずは40人学級でどれだけ教室が足りないかということが、まずは前提なんです。その部分での緊急性を捉えて言えば、申し上げたように、2年、3年というスパンの中で、考えていく課題であると。ただその時には、また20年度の推計を出しますけれども、状況を常に見ていかないといけないと思っております。あと、先程会長がおっしゃられました、いわゆる校区外制度5パーセントという話で、それが10とか15とかという話もありましたけれども、兄弟枠というのがあります。5パーセントで既に行かれているお兄ちゃん、お姉ちゃんがおられた場合は、もちろん受入枠がなければ駄目なんですけど、5パーセントの最初の入り口という部分はクリアになります。今はそれ</p>
-----	---

程まだ年数が3年しか経ってませんので、兄弟枠を使われる方というのは、そんなにおられません。ですから実績がない。6年ぐらい経たないと分からないと思うんですが、トータル6年経ってくれば、場合によったら5パーセント枠ですけれど、人数的には10パーセント近いという可能性も、ゼロではないと思います。そういう部分で、ある程度流動は見るんですけど、東谷から牧の台、あるいは陽明小学校へという形で、校区外就学を使われて、東谷から出られる方が多いということであれば、東谷は減りますので、教室は困らないという可能性はあるんですが、それ程流動性はないんですね。今現時点では牧の台小学校へ、希望される方もおられますけども、そんなに抽選をしないと困るというような程の人数ではございません。枠があるからということの可能性で、抽選を嫌がられるという背景があるようにも聞きますけれど、少なくとも今の現状の中では、そんなに大きな変動は起きないであろう、東谷の教室不足を解消する程には、変動は起きないだろうと。逆に東谷へ流入している部分もありますので、その部分の中で制度はなかなか使いにくいと。ですから、消去法でいくと校区変更というような形で考えたということになります。それと、特に西畦野の部分については、非常に大きな問題なんですけど、我々とする、東谷中学校の部分も視野に入ってくるわけです。東谷中学校もちろん、増築すればいいじゃないかという話になるんだらうと思うんですが、基本的にそれを前提にしないという限りでは、東谷中学校そのものも、そんなに教室に余裕があるわけではございませんので、東谷小学校の問題だけではなくて、中学校に及んだ形の中で考えざるを得ないということがあります。西畦野というのは、やや陽明小、緑台中学校に隣接をしているという部分の中で、地域性としては、もちろん歴史的な部分は置くことにはなりますけれども、通学路上の問題ということであれば、いろは坂の問題も出ましたけれども、基本的には歩道は確保されております。距離的な感覚はあるでしょうけど、一つの選択肢としてあるだろうというのが、教育委員会の考え方です。

また、当初申し上げましたように、次回5月ぐらいに予定をさせていただきたいと思えます。それは、次の推計がでるということ踏まえてということと、それまでに舎羅林山の部分の校区をどうするのかということの、教育委員会の案を作らせていただきたいと思います。その原案を作ったうえで、正式に諮問をさせていただきたいと思えます。これについては、今議論が東谷の方に移っておりますけれども、今日既に済んでいるような形になっております、清南の問題の部分と、もし可能であれば明峰小学校の部分と、新たに追加させていただく部分に、議論を移していただければと思っております。そういう意味では、東谷コミュニティを含む、根本的な問題につきましては、とりあえず一旦休止といった形になると思うんですが、その辺よろしお願いしたいと思います。

会 長

今のお話でどうでしょうか。今の提案はですね、明峰の部分の話を押さえはしたいとい

<p>事務局 会 長 各委員 会 長</p>	<p>うのが一つ、東谷につきましては、切り離すという意味において、継続に近いですね。ただ、だいたいの状況がどうであったかということは、今日学校関係の方がいらっしやらないけれども、大きな意味での、なかなか歴史的に大きな問題があるという、確認に近いことになるだろうと思います。また5パーセント枠については、比較的多様なものを問題処理すべく、フレキシブルにできているということも、もう一回確認されたという点だと思えます。</p> <p>もう一つの問題はですね、校区の線引きのところをどうするかということなんですが、これはコミュニティのまとまりの問題と同時に、開発による大変化の部分が既に5月以降の次年度推計等で色々入ってくる部分もあるということで、これにつきましてはやはり、従来事務局提案の中で考えていた部分よりも、もう少し質的に大きいものが一杯入ってくると思われます。それらを含めての議論を次回のところで、もう一回明快にできるところは出した上で、議論をして欲しいということになると思います。</p> <p>一番難しい問題は、このように三種類ぐらいの大きい問題があるものを、2、3年のスパンでステップを踏みながら、考えていかなければならないあたりが、なかなかこの審議会の難しいところですね。ただ思えますことは、既にいくつか確認できて、スタートしてよろしいという部分は、させていただくことにしてですね、一番重要なところは大きい開発を含んで、どの様に議論に乗せ、これまでの議論を接合し、統合的な設計案として私らが勧告できるかという事だと思えます。</p> <p>すいません、明峰の部分は一定の確認をするということで、いいのでしょうか。</p> <p>その方向でいいかどうかだけ、ご確認いただければ。</p> <p>このように絞った提案をされておりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>はい、では承認を得たということで理解します。</p> <p>今日は大変重要な議論、しかも討論としては対立点も含めてでたりですね、色んな意味での相互の確認もあったりしました。これで充分とは思いません。なかなかいくつかの案件を引き続き、三層ぐらいに分けておいて、丁寧に分けしながら議論を続けるというふうに、やらざるを得ないと思います。今日は長時間にわたりました、本当にありがとうございました。</p>
------------------------------------	--

※ 主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。